

# 同窓新報

題字・故 上野慧賢先生  
 駒大高校同窓会 会報  
 発行所  
 駒澤大学高等学校  
 同窓会  
 正会員数 19985名  
 東京都世田谷区上用賀1丁目  
 〒158-8577 TEL.3700-6131(代)  
 FAX.3708-7291  
 振替口座 00180-6-61881

## 平成十一年度

# 役員総会開かれる

五月二十二日(土)午後四時より母校の「会議室」において、役員幹事諸氏が集まり、役員総会が開催されました。

大谷会長は挨拶の中で、野球部選抜甲子園出場に際しての同窓生の支援に感謝すると共に、明年開催される同窓会創立五十年記念総会等に向けて同窓生・役員との協力を要請された。

続いて河村光司新校長(特別顧問)より、抱負と野球部の甲子園出場に対して同窓会からの多大な援助と、学校への協力に感謝するとの祝辞がなされた。

永年勤続の先生方に記念品の贈呈をした。

永年勤続者  
 四十年  
 有川 友弘(教頭)

三十年 深谷 元(地理)  
 二十年 岩岸 孝(国語)  
 十年 澤邊 敏子(養護)

谷口 英嗣(理科)  
 議長に田上太秀氏(四期)を選出

平成十年度事業報告  
 平成十年度決算報告  
 平成十年度会計監査報告  
 平成十一年度役員改選  
 平成十一年度事業計画  
 平成十一年度予算案

懇親会に入り承認  
 の審議に入り承認  
 方々を囲み、甲子園の話題を中心に和やかに役員総会を終了した。

# 想いさまざま50年

## 駒澤大学高等学校同窓会 創立50年を迎えて

### ●記念総会

平成12(西暦2000)年  
 6月10日(土曜日)午後5時～

### 新宿

ホテル「センチュリーハイアット」  
 是非ご参集下さい

### ●記念名簿発刊

平成12年5月 刊行予定

名簿整備中です。  
 ご協力をお願いします。

## 平成十一年度

# 新役員決まる

特別顧問	河村 光司(新任)	顧問	有川 友弘	大内 勝蔵(新任)	神谷 道倫	幸前 芳孝	松本 宏樹	田島 宏樹	鈴木 貞雄	小林 明子	新羅 朱美	秋山 彰三(一期)	名譽会長	菅谷 正和	幹事	田村 優武	栗原 純	鈴木 陸聖	小田切 真衣	飯島 尚子	伊藤 尚之	中村 幸弘	假屋 幸弘	中村 仁美	木村 佑	高木 恒一(十六期)	浦井 清(十九期)	真間 馨(二期)	妻倉 由明(十六期)	日吉 明廣(十九期)	豊明 富士子(特別会員)	吉野 信行(二八期)	浜田 好晃(八期)	吉野 信行(二八期)
------	-----------	----	-------	-----------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-----------	------	-------	----	-------	------	-------	--------	-------	-------	-------	-------	-------	------	------------	-----------	----------	------------	------------	--------------	------------	-----------	------------

### 新幹事(四十九期)

## 第九代校長に河村先生

### 校長に就任して

### 校長 河村 光司



夏の白い花が行交う人の目に止まり、暑さと疲れをいっとき忘れさせてくれます。校長に就任して早くも四カ月。昭和三十七年、人間教育に如何に徹するかを教示

下された故上野校長以来三人の名校長のご指導を拝受して三十七年が過ぎました。校長になった理由を何度か聞かれて返答に窮したものです。本人自身が一番驚いたかたは、歴代の校長とは比較になりませんが「俺は是れ吾にあらず」の気概を持って職務を全うした。本校が進むべき新時代の航路に火を灯して行く覚悟でいますので、同窓生の皆様の尚一層のご教導、お力添えをお願い致します。

さて、「ビジョンなきところに理念なし」。学校を取り巻く外部環境は誠に厳しく、めまぐるしく変転しています。どんな学校にしたいのか。特色ある学校づくりとリーダーシップが問われるところ。仏教の教えを根幹として文武両道の実現を目指すことを第一義としたいが、事始めは「魂より始めよ」と言います。①生徒募集活動の抜本的改革②進学校としての使命③国際化教育、情報化教育の改革④国際化教育、情報化教育の見直し⑤教職員の意識・行動改革の必要性、等の四点を課題目標とした。学校の運営は同窓生の皆様の強力なバックアップなくしては考えられません。どうか母校の発展のためにご支援、ご協力の程お願い致します。



### 講師紹介

ジャズピアニスト 太田昌宏

# 駒大高祭文化公演会

駒大高祭  
 11月2日(火) 10時30分  
 文化公演会

...駒大高生に贈る...  
 ジャズコンサート!

出演=エムズカンパニー  
 太田昌宏(36期・昭和61年卒)他  
 場所=駒澤大学高等学校・新体育館  
 主催=駒澤大学高等学校同窓会

一九九六年エムズカンパニー発足。  
 一九九七年(株)日本アカデミー・アカデミー音楽村内にレッスンスタジオを開講し、ジャズピアノ、ポピュラーピアノ部門の主任講師を務める。そのレッスンの内容には定評がある。  
 又、ジャズ好きの人たちを集めたサークル活動も行っている。その他、特別養護老人ホーム等でのボランティア訪問演奏も意欲的にに行い、親しみやすいキャラクターで喜ばれている。  
 神奈川オーブンカレッジ、神奈川ニューライフカレッジ講師。 三十六期E組

# 永年勤続ご苦労さま

◎四十年勤続

教頭 有川 友弘



先日、永年勤続四十年を記念して大谷同窓会長より記念品を頂戴いたしました。心より感謝いたします。思えば永年勤続十・二十・三十年の記念品を秋山前会長より頂戴したことがつい先日のことのように思い出されます。まさに修証義の一節が心に浮かびます。「身に私に非ず、命は光陰に移されて暫くも停め難し、紅顔いづくへか去りにし、尋ねんとするに蹤跡なし」

さてこの四十年間を振り返りますと、同窓会活動の進展と並行して学校も間違いなく発展してまいりました。

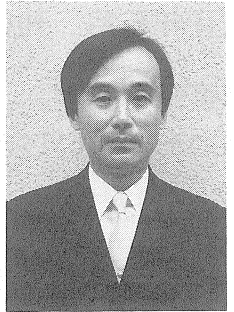
近年においては四十周年の記念事業として新館・別館を完成し、この度の五十周年記念事業としては永年の夢であった体育館の建設を行い、また男女共学制への移行にも踏み切りしました。更に夢のまた夢とも言える甲子園出場も果たせました。これらの事業や行事は計画実施に至るまでの道程に卒業生諸氏の歴史が生かされ、新たな躍進への基盤となっております。

またこれら諸行事の実施にあたっては、快くご協力を頂いている同窓生諸氏に心より御礼申し上げます。

この度の表彰と合わせて母校へのご助力に対し感謝を申し上げますと共に、今後の一層のお力添えをお願い申し上げます。

◎三十年勤続

教諭 深谷 元



記念の杯を傾けていつの間にか、三つ目の記念品を頂戴するのしになってしまった。

一つ目は、たしか平凡な(?)花瓶だった。幹事のU先生が、ご本人も呑助であらせられるから、二つ目は切子硝子の盃をいただいで夜な夜な愛用してきた。

今回はクリスタルグラスの、使うには惜しいペアのグラスである。そいつを傾けながらこれを書いていく。

普段、若い奴等を相手にしてきたから、自分では外見だけとは思っていたが、鏡のなかには白いものがぼちぼちと混つてきた。

た。

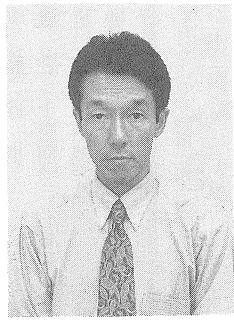
教室や職員室でも「若手」との間に、活動度Aのタテずれ活断層・逆断層が走るのを、ひしひしと感じる近ごろだ。

本来なら、「このたび、榮譽ある表彰を賜りましたことは、まことに身にあらざる光榮でありまして感激に堪えませぬ」と書くべきところだが……次の十年間、あと十年、まだ十年も、微力・非力ながら。

鳴呼、また呑りすぎた。(地理)

◎二十年勤続

講師 岩岸 孝



「十年一昔」というから、私が奉職したのは二昔前ということになる。

当時は第一次オイルショック

後の不況が尾をひいて就職難の時代であったが、弟くらの年齢の生徒と冗談を言い合い、授業の合間に雑談をしているのか、雑談そのものが授業なのかという仕事を、給料を戴いていたのだからかなりオイシイ思いをしていたと言えらるだろう。

最近では息子や娘と言ってもおかしくない年齢の生徒を相手に、雑談をすることも少なくなり、たまに冗談を言ってもウケることは稀で、どこに出してもはずかしいオヤジになってしまったらしい。しかし年々変わっていく生徒の反応に感じて「どこに出してもはずかしい授業」を目指すのが教師としての使命である。そのためにならざるが、「二昔前」から続く二十年間の経験だと思っ

てい。(国語 二十五期G組)

◎十年勤続

教諭 澤邊 敏子

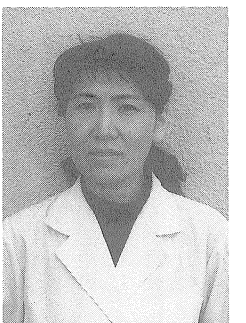


岡野 優子  
国語  
駒澤大学  
文学部国文学科

ご縁があつて駒澤大学高校の教壇に立たせて頂く事になりました。

古典を中心に学んで来ましたが古典で教鞭を取ることの難しさだけでなく、多くの生徒と接することの大変さを痛感している所です。

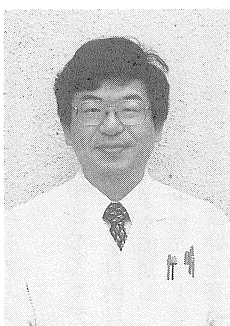
問違いなく日本語である古典を読む時に外国語を訳解する為



の現れなのではないかと思ひます。彼等の疲れも現代症の一つといえるでしょう。そんな現状の中で、ホッと安らげて、再び頑張ろうとの活力を与えられる保健室にしていかなければならないと思つていきます。(養護)

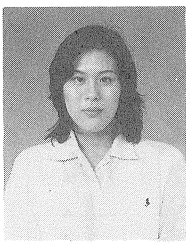
◎十年勤続

講師 谷口 英嗣



永年勤続しての感想

先日は同窓生の皆様から大変記念に残る品をいただきありがとうございます。誰でも長らく同じ事を続けていると時間が経つのが早く感じられますが、私も同感です。ただ、駒大高生のカラーとでも言うべきものは川の流れていくなもので、ただ見ているだけでは普段と変わらない水の流れていますが、その流れには実に様々なものが解け合ひ、混じり合っていました。この十年を振り返れば、色は白黒の濃淡から、淡色に時々原色が混じった色合いに、流れの速さはややゆつくりとした瀬といったところから、最近では淵に変わってきたところでしょうか。川底にはでこぼこ礫がありました。最近では粒のそろった小石が敷き詰められた感じ。水の透明度は残念ながらやや濁って見えるときがありました。水面にはいつも浮き出た小枝や、青々とした葉が浮かんでいました。これからもこの流れを絶やさず、濁らせず、何か光るものを滔々と流していつまで下さ



高岸 晃  
英語  
白百合女子大学  
文学部英語英文学科

はじめまして、今年の四月に英語科に就任致しました。早いもので、すでに五ヶ月がたとうとしておりますが、その間、今までとは違った様々な経験をすることができました。今までは自分が生徒として学校という場所に関わってきましたが、教員と

して学校という場所に関わっていくというのは想像してた以上に大変なことだと思ひます。その反面、楽しいことも多いのですが、いろいろなことがたくさんあり、一学期は毎日があつたという間に過ぎていくといった感じでした。

まだまだ勉強不足ですが、これから頑張っていきたいと思ひますのでよろしくお願ひいたします。(教諭)

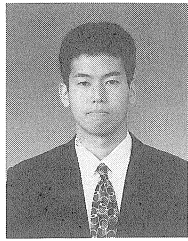
内村 征幸

数学

早稲田大学理工学部

電気電子情報工学科

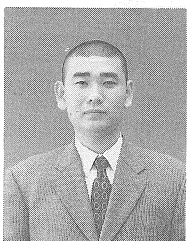
本校に就任することとなり、教師としてスタートラインに立



つことができました。自分なりの目標や理想を掲げて駆けだしましたが、実際の現場では思い通りに事が運ばないことを痛感し、苦悩しつつもやりがいを感じています。

それにしても未だに、何で俺が教師やつてんだと思つては、こみ上げる笑いを必死で抑えています。教師という実感、自覚はまだ薄く生徒と間違われることもしばしばですが、キメるとこビシッとキメて楽しくやっていきたいと思つていきます。(教諭)

間違いなく日本語である古典を読む時に外国語を訳解する為



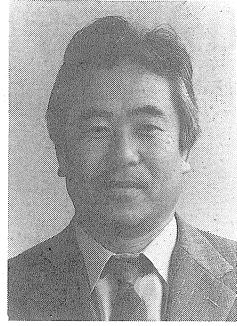
玄野 善識  
仏教  
駒澤大学  
仏教学部仏教学科

町を歩いていると、幼稚園バスを待つお母さん達の会話の中に、「健康で伸び伸び育つてくれればそれが一番です。」という言葉をよく耳にします。仏教の授業というのは、まさにこの為にあります。体が健康でも、心が病んでいては本当の意味での健康とはいえません。近年、心の病んでいる学生が増えていきます。しかし、仏教にはその心の病を救う方法が存在します。その一つの方法として、坐禅の授業も積極的に取り入れていきます。心の病は、一度発病すると簡単には治りません。心の予防薬と理解して頂ければ幸いに存じます。私自身も、初心を忘れずに一生懸命がんばって行く所存ですのでよろしくお願ひします。(講師 四十一期C組)

(理科)

# 恩師を訪ねて

## 思い出します



伊藤 長平

お元気ですか、春の甲子園出場、おめでとございます。私も嬉しくて、周りの者に吹聴して幸せな時を過ごしました。

私は、三十三年前、昭和四十一年に貴校に教諭として三年間お世話になりました。前の和田校長先生は総務部長をしてみえ

ました。そのころの思い出と言えば体育館での冬の座禅、生徒と一緒に永平寺に泊まったこと、生徒と全力走で馬事公苑を一周し、ばてたこと、吹奏楽部で有川先生、千葉先生達と理科で合宿したこと、先生方と楽しく卓球をしたり、将棋をしたことが懐かしく思い出されます。また

た、機会あるごとによく歌っていましたね。

一年後に馬場捷美先生が入ってみえました。他に色川先生、丸山先生達と渋谷の「梨花」でよく飲みました。すると、もうママさんも喜寿を迎えたのだろうか。元気で今も頑張っているのかな。

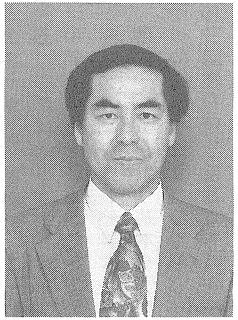
その後、愛知県に戻り中学校に七年、そこで音楽の先生と結婚し、一男二女をもうけました。家内は学校を辞め、家で、今もピアノを教えています。中学校の後、看護婦養成の高校に七年、普通高校に六年、今、農業高校で十一年目を迎えた私も、五十

六才の白髪頭になりました。あと三年半で退職となります。

(現在愛知県立渥美農業高校) 昭和四十一年四月 数学科 教諭として奉職 昭和四十四年三月 退職

# 徒然なるまゝに

熊谷 淳義



駒大高校では三年間、地理講師としてお世話になりました。新卒当時の私の拙い授業を真面目に一生懸命聞いて下さった駒大高校の皆さんの様子が、今ここに筆を執っている私の脳裏に走馬灯のように蘇ってきました。

当時の駒大高校は、いわゆる男子校独特の蛮カラとは無縁の大学付属高校特有ののんびりした雰囲気のある学校でした。地理・地学巡検で箱根に行き、箱根独特の地形や岩石の様子を

ぶさに観察できたことがとても印象に残っています。現在は、毎回送られてくる「同窓新報」を拝見するにつけ、皆さんの明るい表情とともに、昨今の流行に流されている他校の高校生とは違って服装がきちんとしていることに、いつも関心させられる

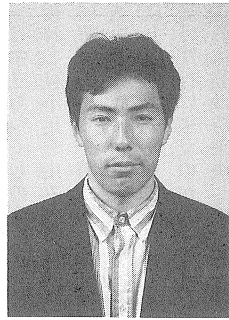
につけ、元氣付けられています。同窓会では職務上、顧問として参加させて頂いておりましたが、学校勤務はややもすれば、閉鎖的な感に陥る嫌いなものではないので、これを防ぐには社会で大いに活躍されている同窓諸兄姉の方々と語り合う事で勉強させて頂いておられます。

これらの事を糧に任務を全うする所存でありますので、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、同窓会には物心両面から、ご支援を頂戴し感謝申し上げます。来年は同窓会創立五十年を迎える由、更なるご隆盛をお祈り申し上げます。

## 自分を変える

民井 良治



私は駒大高に昭和六十三年四月から平成四年三月までの四年間勤務させて頂いてきました。当時は男子校で、昼休みにグラウンドで生徒と一緒に野球をしたことや、数学科の中島先生にテニスを教えていただき一緒に合宿に参加したこと、教員対抗のソフトボール大会に参加させていただいたり、講師の親睦会を企画したり、若手？の先生方と冬休みにスキーに行ったり(妻とはその時スキー場で知り合いました)と、とても楽しい思い出がたくさん詰まった時期でした。今は国士館中・高で数学科の教員をしています。学校に近いせいもあり、公私ともに今でも頻りに駒大高に寄り添っていただいております。

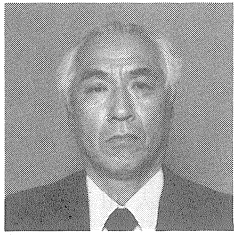
さて、私が今取り組んでいるのは、因果報によって事態をみて、自分(因)を変え、同志や原則・システム(縁)を整えることによる問題(果報)を変えていくということです。生徒や職場の問題は、自分の受信や発信の仕方にも原因があり、他の原因は直接変えることはできないが自分の内(こころ)を行

うことが楽しくなってきました。これも偏に駒大高校での教職経験があったからこそと感謝しております。これからも駒大高校のますますの御発展を願って止みません。

(現職板橋区立赤塚第二中学校 教諭) 昭和五十三年四月 地理講師として奉職 昭和五十六年三月 退職

# 生物化学部員とともに

鷲塚 靖



生物化学部員は渋谷校舎から大学構内に新築された校舎に移転してより、昼食時や放課後理科室に来るようになった。大野博、小池信行、若山礼二、米田

誉史君ら十三名で、そのうち生物に興味をもつものが多かった。よって、訪花性昆虫の調査と食糞性昆虫の研究などを主題としてこれに着手し、その研修を多摩川水源地近くの六ツ石山で行った。そして夏休みに、南

アルプスの赤石岳で訪花性昆虫を中心に、ハナカミキリ類やコガネムシ類を追って頂上まで調べた。帰途、疲れを忘れるため当時流行の「山男の歌」と「駒大応援歌」を歌いながら下山した。夜、すしづめのテントで寝られず、入口のフライマット下で寝たことなどが忘れられない。その後、駒大薬科寮に泊り、

夢科牧場で糞虫類の調査を行った。牛糞を棒でかき混ぜ、ダイコクコガネ、センチコガネ、ツノコガネ、マグソコガネ類、エンマコガネ類を採集した。これから成果の一部を文化祭で再現し、夜遅くまでその制作に熱中した。彼らは明るいまじめなよい生徒たちで、よく喰い、語り、私が学校を去るときは惜別の気持ちであったことが思い出される。(現職日本文理大学教授) 昭和三十六年九月 生物教諭として奉職 昭和三十八年三月 退職

## 特別会員の異動

和田 實正(校長)

S 33・4 H 11・3

上田 栢生(事務長)

H 7・4 H 11・3

増田 為三(数学・教諭)

S 37・4 H 11・3

加賀田文子(用務)

S 51・2 H 11・3

村上 猛(英語・講師)

H 10・4 H 11・3

昼食前の「五観の偈」や「三帰依文」や「般若心経」を唱えたのを思い出します。お陰様で、今は祖父母や父の月命日には「般若心経」を唱えています。

先生方も大勢いました。校長先生を始めとして皆素晴らしい先生ばかりでした。

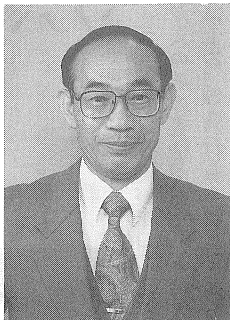
短い三年間でしたが、生徒指導やクラス経営など教員としての基礎をしっかりとつくっていただきました。

お陰様で本年三月、大過なく無事職責を全うし定年退職をすることができました。ご指導誠にありがとうございました。

昭和三十九年四月 化学教諭として奉職 昭和四十二年三月 退職

## 思い出多い駒大高

堀江 治男



私は昭和三十九年東京オリンピックの年から三年間本校にお世話になりました。十六期生の二・三年と十七期生の一年生の担任、そして化学を担当しました。教員として初めての学校であり、思い出はたくさんあります。

まず、ビックリしたのが生徒の人数の多いこと。一クラス七十人近く、それが一学年十四クラスでした。しかも、男子ばかり、元気で活気にあふれていました。

体育祭・マラソン大会など一緒に走ったものでした。そして、よく生徒が胴上げしてくれました。これは本校ならではの体験でした。

本校ならではの体験といえ、色々々宗教行事ではないでしょうか。これも貴重な体験でした。

## 事務長に就任して

大内 勝蔵



桜花爛漫の四月、一抹の不安を感じながら本校へ赴任して、はや五ヶ月が過ぎました。高校勤務は初めての体験であり、仕事の面では業務の幅の広さに驚かされ、いまだ勉強中の看板を

背負いながら勤務にいそしんでいる現状であります。

おもえば、本校は五十年の輝かしい伝統と実績のある学校であり目前に迫った二十一世紀に向かつて新たな歩みを進めた創立五十一年目のこの大事な時期に、事務長に就任できたことを光栄におもいつつ同時に、この重責に押し潰されそうなおもいをいたしておきます。しかし、校内には若人達の元氣一杯の姿、そして早朝から生徒指導に励む先生たちの明るい顔を拝見する

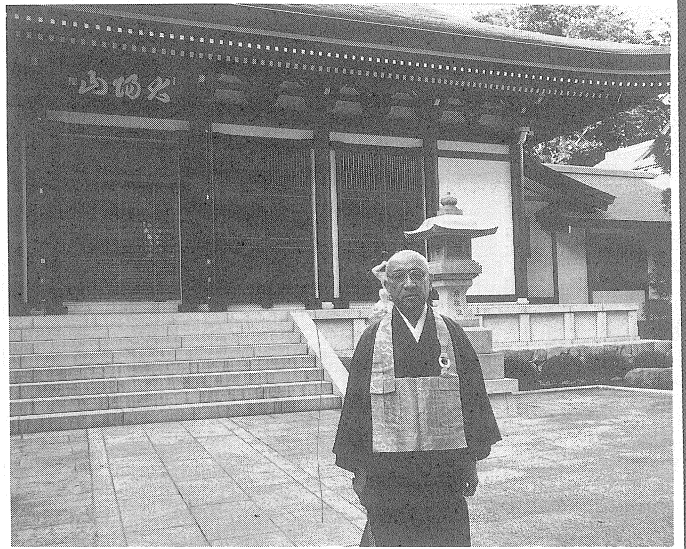
につけ、元氣付けられています。同窓会では職務上、顧問として参加させて頂いておりましたが、学校勤務はややもすれば、閉鎖的な感に陥る嫌いなものではないので、これを防ぐには社会で大いに活躍されている同窓諸兄姉の方々と語り合う事で勉強させて頂いておられます。

これらの事を糧に任務を全うする所存でありますので、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、同窓会には物心両面から、ご支援を頂戴し感謝申し上げます。来年は同窓会創立五十年を迎える由、更なるご隆盛をお祈り申し上げます。

# 太陽山東光寺 (目黒区)

三期 大谷 康憲



東横線都立大学駅下車改札口左に出て徒歩五分の所に古刹曹洞禅宗太陽山東光寺がある。当山は貞治四年(一二六七) 武州

世田谷城主吉良治家が其の子祖朝早世のために建立し、その当時は東岡寺と称したが吉良頼康の御朱印に東光寺とありたるた

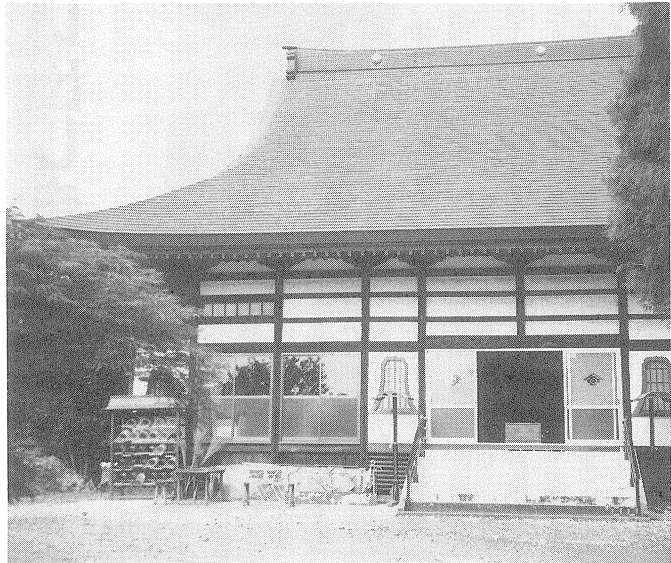
め、以来東光寺と改めたと云われている。天正十九年には徳川氏に至り寺領三十石を給せられていた。開山は武州国多摩郡二俣尾海禅寺五世太古禅梁大和尚を住職となし、因って海禅寺末に帰す。当山の歴代和尚様は二十九世慈嶽昌之大和尚を経て現代に至っている。現本堂禅宗様式単層入母屋造は平成九年に新築完成したものである。本尊は釈迦牟尼如来が安置されている。当山開基吉良一族の供養塔は山門入って左の墓地に入り、階段上りきった正面に三基並んである。境内には見るべきもの多く、先づ目につくのが正面の大イチョウ、樹令約二百五十年といわれている大木。夏には木の下で涼を楽しむ人が大勢来られる。また、慈母観世音菩薩像、馬頭観世音像、それに六地藏尊、幸福を呼ぶ七福神など、多くの石像が点在している。最近、特に朝な夕なに石仏の前で手を合わせ信仰される方も多いよう

ある。また、境内には邪魅を攘い子供の夜泣きを鎮めるといわれる鬼の念仏を安置してある。鬼の背中に傘を背負っていることが非常にめずらしいと遠方から時々取材にこられることがある。山門に入って左手に鐘樓堂があり、鐘樓に懸る梵鐘は享保二十年(一七三七)の鑄造で、毎年大晦日の除夜の鐘には多くの善男善女で賑わう。本堂裏手には心字池と名付ける古池があり、現在でも多少の清水がわき、たくさん魚が生息している。山の中途には徳川時代の当山鎮守稲荷堂が在している。いづれにせよ困りはうっそうと樹木が茂って、まさに深山幽谷の風情で、静寂の場である。当山はいつでも荘厳な仏が点在する広々とした境内を暮参する家族連れや参詣人が行き交り信仰の場となっている。近くにおいでの際は是非御参詣お立寄り下さ

い。(東光寺住職)

# 大本山永平寺にて修行

十九期C組 中野 秀順



平成十年四月十二日私は慈雲寺三十世として晋山結制を修行させて頂いた。先住三十九世は

私の父であり、昭和四十三年に晋山結制を修行している。寺に生まれた私は、昭和五十一年三

月大本山永平寺へ登る。今から二十三年前の自分を思い出そうとしている。門前の地蔵院で一晩を過ごし、身仕度を整えていよいよ永平寺へ向う。山門頭にて合図の版を打ち、ひたすら待つ。じっと立って待つ。待つ。待つ……客行和尚(修行僧を指導する役目の僧)の指図にて且過寮へ通される。そこには先に上山した修行僧が黙々として坐っている。この且過寮は自分自身の立振るまい坐禅・食事の仕方等を覚えるところである。その後衆寮へ入る。ここは永平寺一日のスケジュールを進行させる大事なところで、修行の基本を学ぶ。さて、一ヵ月余り基本を学びつつ典座寮へ転役となった。一日三回修行僧二百五十名の食事を作る。寮員十名が当番を交替しながら担当する。毎日が一汁一菜であるが、その量を覚えるのが大変である。汁物はなべて

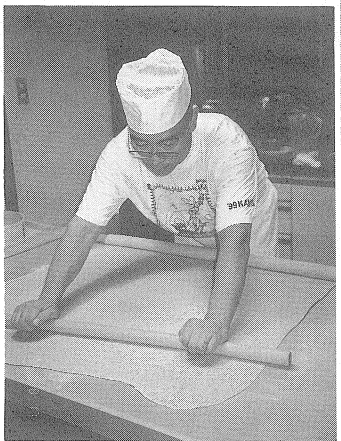
量る。煮物は材料を数える。人数が多いので朝がすむと昼の準備。続けて夕食の準備となる。一日中立ちつくしの食事作りは疲れと寝不足を生み、勤行中に居眠りが出る。特に四月中の一週間の授戒会中は、毎日五百名以上の食事を作り、永平寺へ本当に修行に来たのかと考える。この体験は将来決して無駄にはならないと思ひ野菜を刻む日々であった。初めて胡麻豆腐を作る。銅鍋の中で一時間練るのが慣れないうちは大変であった。参籠者が多い時は、二回作らなければならぬ。疲れきってフツンの中で寝てしまう。翌日の当番を忘れた時もある。夏は三時、冬は五時振鈴の永平寺では、当番により一時間前起床となる。

今懐かしく永平寺を振り返り、四ヵ月余りの典座寮生活を思い出している。(慈雲寺住職)

## 新シリーズ 私の趣味①

### ソバ打ちの楽しみ

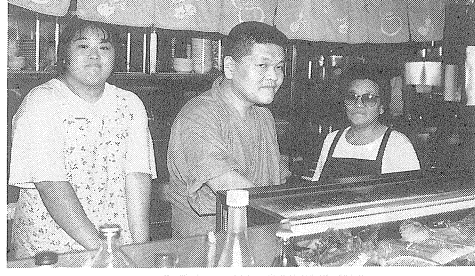
教諭 横山 汪



ニコリ、ソバを口に運んだ人の表情が私をしばわすにする。ソバ打ちを趣味とする私にとってうれしい一瞬だ。私のソバ打ちは九年前、本校の林間学校でのそば打ち体験教室がはじまりだ。そのときの講師は、皇太子時代の今上天皇に手打ちソバを献上したという、信州信濃町そばの老舗「信濃屋」の女将小林マサエさん(七十六歳)。長めの一本棒で打つ女将さんの手さばきに生徒ともども目を見張った。かねてよりソバを打ってみたいと思っていた私は、さっそく現地で道具一式を買った。当初1kgの粉を打つのに二時間は優にかかった。肝心なつゆは「食べる人が勝手に作って」などと乱暴な事をいいながら、「作品」を押し付けた。この時期が「被害者友の会」会員の急増期だったろうか。ソバ打ち第二の開眼は五年前。「そばは粉だよ、粉。粉さえよければだれだっていいそばが打てるよ、今の師匠に出会ったときの開口の一言だった。だが、師匠の次の言葉「後はたくさん打って慣れるだけ」これがなかなか意味深長だった。その後の打ち方はのし棒と巻き棒二本の三本で打つ、関東(江戸)風だ。二kg以上の玉を打つのに適している。当面は三kgを一時間以内で打ち切る事が課題だ。しかし打つほどに課題が続き出ている。この九年前に数百回を打って会心のときは皆無に近い。同じ粉で連続して打つ時、こねる水をきっちり計量したつもりでも、同じやわらかさの玉に仕上げるのはむずかしい。事程左様に、のし・切りの会得も手ごわい。その他、水回しの水、

つゆの製法・ゆでかた・薬味・道具のことなど、どれを取ってもこだわれば際限がない。思うに、究極のそばを打つなら、ソバの栽培は無理だとしても、粉は自分で調整すること。そのため、私には見果てぬ夢ながら、石臼の調達が必要だと思っている。結局、こんなごたくを並べていると納得の行くソバはなかなか打てぬということのだが……。小難しいことは抜きにして、とにかくソバ打ちは楽しい。香りのたかいキラキラ光るソバが茹で上がったときは爽快の上ない。それにもましてうれしいのは、人様との関係がソバをとおして広がりが深まりをもちたしてくることに。私の師匠は玄ソバ(殻付きのソバ)から製粉して打ち上げる頑固なプロだ。その師匠の一言々は示唆に富む。おかげで私のソバは毎回徐々にだが進歩している。「オイッシー」と言ってくださる人もふえている。真田同窓会副会長は私のそばを食べてくださる一人だ。それをいいことに勝手に「被害者友の会」会長と決めさせていただいている。紙幅がつかした。ソバに思いをよせる同窓の方々からの御教示を期待している。(世界史)

### 味で心を魅了する 味処「尾花」



午後六時、お店にお邪魔。ご主人、牧野幸治さん(昭和五十六年卒三十一期G組柔道部)、真由美さんご夫妻の明るいかけ声で迎えられました。この桜丘三丁目の地で今年十五周年を迎え、世田谷通り沿いであって、年期が入った店がまえます。メニューも、おそば・うどん・定食・旬のお刺身など、いろいろと百種類以上用意されています。先代が山形出身というところから、野菜がたっぷり入った「尾花どん」も店の

会員だより

マラソンランナー

十一期A組 久野雅晃

私の在学中には、夢のまた夢であった甲子園出場おめでとうございました。さっそく大阪に行き、この目で甲子園での初勝利を久々に合う先生方や同窓の方と心を一つにして応援する事ができました。ありがとうございます。

さて私事ですが、三十八歳九才にかけてどうやっても肥る事が出来なかつた四十七〜九kgの体重が、あつというまに七十八kgになってしまいました。さあ大変、四十年間さえたことのない体重に足首や膝がまず悲鳴をあげ、次に肩こり、じんましんになやまされました。

カイロプラクティックやマッサージに行つたのですが一時おさまるだけで、行かない日には苦しくて眠れません。そんな時にスポーツトレーナーと出会い、自分の体を動かす方法がないとアドバイスを受けました。

仕事場近くの国立競技場スポーツサウナを紹介され、初めの二週間はポルトこぎマシーン一回十五分から始め四十五分まで出来るようになりました。二週間を過ぎるとストレッチが加わり一カ月過ぎた時には死んだように眠れるようになりました。



その頃、少し走りを入れると言われ、東京オリンピックの行われたあのグラウンドへ。ところが四百メートルトラックを一周半したところでダウン。楽しそうにしゃべりながらジョグしている人達にどんだん抜かれてのこと、少々ショックでした。その時、一緒に指導を受けた仲間「いつかはフルマラソンを走つてやる」と苦しい中、口走つたのを指導員に聞かれ、それが縁で五年後、初フルマラソンを定番のホノルルで走りました。

本番三週間前には皇居(一周五K)を六周し準備OK。ホノルルマラソン三十五K過ぎではあと皇居一周半と自分に言い聞かせ、四時間五十七分で感激のゴール。他では味わつたことのないいろいろなことを体験しました。

これが病つきになりホノルルを連続五回、三時間四十分前後で走れるようになりました。その後、ニューヨークで取材があり、タイミングよくニューヨークマラソンにも参加し、レース前後で仕事をしたりもしました。

アトランタオリンピックの前年にはオリンピックコースを走つて来ました。自分で走つたコースをテレビで応援すると、コースを体験しているのと同じ感覚で応援出来ました。

世界で一番歴史のあるボストンマラソンの百回記念大会にも行きました。ワンウェイのコースには途切れることのない応援の人垣、ゴール手前ではミスター・クノ、ジャパンのゴール、元気がよみがえる思いでした。

韓国の済州島で行われた第一回チエジュマラソン大会の時

には、応援の兵士が砂浜を銃を持って伴走したり、話かけて来たりで大変でした。

スポーツ音痴の私が体調を崩した事で出会えたマラソン、自分でもこんなに楽しくなるとは不思議な感じです。

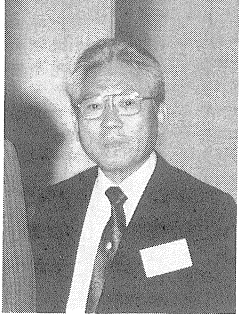
新しく開通する道路や橋、滑走路のオープニングイベントでのマラソン大会も一回だけの大会として面白いものです。

東京湾アクアラインも走つて来ました。山形さくらんぼマラソン、富里すいかマラソン、湯河原オリンピックマラソン、牧丘巨峰マラソン等、くいしんぼうの私に嬉しいマラソン大会が沢山あります。

す。ビールに釣られ、果物に釣られ、風景に釣られ、温泉に釣られ一つ走ってみませんか? 写真は長野大町マラソンにて(俣コウ写真工房)

我が母校の今昔

四期野村安久



私は昭和二十六年四月入学。昭和二十九年三月卒業第四期生。

息子は昭和五十六年四月入学。昭和五十九年三月卒の第三十四期生。戦後「生存の欲求」しか出来なかつた極貧の学生時代、息子は「帰属と愛情の欲求」の豊かな時代の学生である。敗戦昭和二十年八月十五日。日本国は焦土と化し、残るものは国民と土地だけ、占領下でヤミ強者の社会で、ヤミを拒絶した裁判官が餓死したり、アメ横に警視庁がヤミ米を調達に来たとか無法に近い世相の戦後ス

あと八万時間

一期吉富勝一



数日前、以前には考えもしなかつた事を思いついた。現在私は六十六才(昭八、三、十七)。妻が(昭十、七、二十七)時折、人には天命と云うものがあるようだが、人様のお世話になってまで生きるとう云うことは、つらいものだ。あと十四年経てば私も八十才、その位まで身の廻りの事は出来るだろう、そしてサツ!とあの世に旅立つことが出来れば良いが、と云えば妻は名前が喜代子なので七十七才までお迎えが来て欲しい、

と云う。算出は今六十六才で、暮引きを八十才と想定して差引き十四年となる。一年三六五日で計五一一〇日で時間にする十二万二六〇〇時間となる。一日の三分の一は睡眠中である。その時間の約四万時間を更に引くと八万時間となる。純粋に行動出来る時間はタツタ八万時間足らずと判る。激動の昭和一桁生まれはガム

ターゲットであった。駒澤大学高等学校の創立は昭和二十三年四月で日本国中極貧の時代で駒澤大学内の老朽化した木造校舎でスタートをきつた。当時は生徒が集まらず、後日談に白浜先生は区立中学校の教員を兼務していた関係などから各中学校に募集のお願いに歩いたが、それでも生徒が集まらず苦慮した。

当時の駒澤大学は専修色が濃く宗門の僧侶学生が多くその中に頭巾僧衣にヒールの学生なども見つけられた。四期生は四十人弱で一クラス、生徒の質は上と下は格段の差となる。授業中、居眠り、早弁、おしゃべり、教師も見ても見ぬふりで授業をすすめる。目にあまると室外退去、自然の残る駒沢公園で、イモリ、エビガニ、シマヘビなど同居で昼寝。毎週月曜日に朝礼で大シャラに生きて来た。

この年になって、中国の朱熹の詩の一節「少年老い易く学成り難し、一寸の光陰軽んずべからず」を、にがく噛みしめている。残る時間でより充実した生活を営む為、六十代からの勉強これも又楽し、人生死ぬまで勉強の意識で、現在妻と二人で毎週手話の勉強に通い、三年目に入った。おおよその表現は判るようになった。ボランティアで何か人様の役に立ちたいと思う。五十年近く給料を頂く生活をして来たが、これからは人様にうるおいを与える側に廻らうと、趣味を生かして春、夏、秋、色々な花を咲かせて道行く人の目を楽しませている。高齢者社会の中で喜びを少しづつ分け合つて、おだやかに生活してゆきたいと思う。

現在簡易保険の集金人として地域を走り廻っています。

学の大講堂で般若心経となえる。異世界で異様な雰囲気がつくり出される。木魚、カネが打たれる。一人が「ブツ」と吹き出す。「クスクス」といつせいに笑いが出る。

そんなたわいない学舎の中で先生方は資質の高い大学教授の兼務であつたが生徒は低い。木造校舎が焼失し、残つた校舎で授業を続け卒業する。その後、生徒が少なく閉校の話題も出る。渋谷校舎に移転して生徒数も増え、地の利をえて存続できほんとうによかつた。

卒業後三十年経て、息子が入学、二代でお世話になる。私が教わつた「赤ザル」上野慧賢校長はすでに他界、「おこし」白浜正幸先生は元気で懐旧談がとび出す。PTA委員を受け、その後PTAと体育後援会が合体し、第一回旗壇会会長に推挙され、ライオンズクラブを辞退し会長を

お受けする。ちょうどバブル経済期の入り口の時代であつた。父母代表としての公職優先、家業の不動産業を家族任せ。土地、株式、ゴルフ会員権がバブル御三家、銀行は担保さえあれば無制限融資。公職で資産活用まるでせぜ銀行に非力扱ひされた。一切バブルと無縁で役職が救いの神で現在も平常を保つき、我が母校の成長満喫。(野村不動産)

お詫び 前号(二十八号)の「会員だより」の十九期I組の中村村信さんと四十七期E組中川岳さんの写真が入れ違つておりました。謹んでお詫びいたします。

平成10年度 駒澤大学高等学校同窓会収支計算書 (平成10年4月1日から平成11年3月31日まで)

Table with columns: 収入の部, 支出の部, 科目, 前年度予算, 本年度予算, 前号, 備考. Includes sub-tables for income and expenses.

平成11年度 【予算案】 (収入の部)

Table with columns: 収入の部, 科目, 前年度予算, 本年度予算, 前号, 備考.

(支出の部)

Table with columns: 支出の部, 科目, 前年度予算, 本年度予算, 前号, 備考.

平成10年度駒澤大学高等学校同窓会収支計算書について監査を行った結果、平成11年5月8日 会計監査 吉野信行 監査

# 校舎新築工事

## 教諭 菊地 主洋

六月に関東大会があり、「体操競技部」「陸上競技部」「ソフトテニス部」「男子バスケットボール部」「剣道部女子」「卓球部」の六部が出場した。

体操競技部  
藤沢市県立体育センター体育館で行われ、駒大高・阿部君が個人の部一位で通過し、インターハイへの出場が決まった。

陸上競技部  
山梨県甲府市小瀬陸上競技場を会場に行われ、女子四百メートルで伊藤さんが57秒51で第三位になり、女子としては初めてインターハイへの出場が決まった。

- ・三回戦（七月二十一日）  
駒大高12×12三宅高  
（六回コールド）
- ・四回戦（七月二十三日）  
駒大高10×10黒学院  
（五回コールド）
- ・五回戦（七月二十四日）

## 関東大会出場を決めて

（校友会・英語）

四月二十五日、都の関東大会予戦を勝ち抜き、初の関東大会出場を決めました。

それまで、一回戦負けや連敗とたくさんの悔しい過去がありました。それを敵しい毎日の稽古を乗り越え、苦しいと思う気持ちを乗り越え、自分を強くしていきました。辛い辛いと言いつつも、皆乗り越えていきました。自分だけが苦しいんじゃない、自分だけが辛いんじゃない、そう教えて下さったのは顧問でもある朝内先生、井上先生でした。

予戦の時、負けを恐れ、相手を恐れてとまどった時思った事は先生の言葉でした。思い切つてやればいい。今までの自分を出せばいい。好きなようにやればいい。

私は、今まで先生に御指導頂いてきたことに、自信と誇りを持てたように思いました。それは私だけじゃなく、他の選手や控の人達もそう感じるようになったと同時に、気持ちが一つになったと言える場面でもありました。

さらに、気持ちが一つになつたと感じたのは、六月五日、関東大会でした。誰もが初めてで、

千葉県白子町白子テニスコートに於て六月四日から五日まで行われた。また、六月二十七日には全国大会となるハイスクールジャパンカップが札幌で開催され、東京都代表として関根・志村ペアが出場し第三位に入賞した。

男子バスケットボール部  
茨城県日立市民運動公園中央体育館に於て、駒大高は群馬県一位の高崎高校と対戦し、前半は互角だったが、後半はミスが出て惜敗した。

剣道部女子  
千葉ポートアリーナを会場に、女子部としては初めて関東大会に出場したが、予選リーグ成績が一勝一敗となり、決勝へ進むことはできなかった。

卓球部  
地元開催となる駒沢オリンピック公園体育館が会場となり、ベストのコンディションで試合に望んだ。

野球部東・東京大会

駒大高3×12日大豊山  
（延長10回）

準々決勝（七月二十五日）  
駒大高6×12帝京高

準決勝（七月二十七日）  
駒大高3×12世田谷学園

決勝戦（七月二十九日）  
駒大高0×3都・城東高

決勝戦では都・城東高の軟投型ピッチャーを打ち崩せず、惜しくも準優勝となり、春夏連続出場の夢は叶わなかった。たくさんのご声援、ご協力いただき本当にありがとうございます。

## 二年A組 笹本美紀

全てが初めてだった。私達は気持ちを作りあげていきました。皆の気持ちが一つになって自然と声をかけ合いました。自然とチームワークが強い気持ちで結ばれました。皆が同じ目標に向かって、強い気持ちでいられた。あの時はそう感じていただけで、あまりはつきりしなかったのですが、体験しなければわからない、とても素晴らしい経験をしました。それは、今でも思い出せるくらい、一生忘れることのない瞬間だったと思えます。

同じように苦しいと思う練習を共にし、辛いと思う毎日を乗り越えてきたからこそ、負けた時も一緒でした。あの時、言葉にはしなかつたけれど、きっと、優しく迎えてくれた先生も一緒だったと思います。私達の事を一番に考え、わかっていたから、苦しいと思う時も厳しく指導してくださいました。嬉しいうちの悔しいと思う事をわかってきてたから、何も言わなくても感じる事ができました。自然と涙がでました。そういう時だから、先生は私達に笑ってくれました。

これからも、先生に御指導頂

汗まみれになって試合をする選手に、チューリップハットをかぶり、メガホンを鳴らす応援席の生徒たち。テレビの中のそんな光景は、私にとって高校生を象徴するものだった。まさか、卒業式も終わった頃に、こんなに高校生らしい行事が待っているとは思わなかった。

前夜に大学を立ち、バスで十時間かけて着いた甲子園は雨だった。雨の中、球場に入ると、すでに延びていた試合開始が更に三時間延びるとのアナウンスが流れた。正直、うんざりという気分になった。しかし試合が始まると、興奮し叫びまくる自分が出た。普段の式の時は口もききたいと思いました。強くなれたいと思いました。

関東大会という舞台を通して、私達は一つ大きくなりました。強い意志を持つことができ

## ありがとう 甲子園

## 初戦突破の夜のこと

教諭 渡我部 由紀

見事初戦突破した日の夕食後は、自由時間であったが、全員が一つの部屋に集合した。それは試合のビデオを見るためだった。宿の方が用意してくれたショートケーキを頬張りながら、「全国放送」に映った自分達の姿に歓声を上げる。四時間も試合が遅れたこともあって、試合前のVTRが長く、補助員や応援の部員もよく映っていた。自分が映ると「もう一度巻き戻して」とか、「Aはかっこいいな」とか、「俺太ってみえない？」と大騒ぎ。彼らが次の試合で、カメラ映りを気にしてプレーに集中できなくなるので

は、と心配になる程だった。しかし試合のVTRが始まると、真剣な眼差しで試合の流れに集中した。

グラウンドに立っているのはほんの一部の者だけだ。その他の者は、応援や食事の片付け・洗濯といった選手のサポート役だ。この勝利は、選手とサポートが一体となって得た一勝だったと思う。

ビデオが終わると、選手達は熱いマッサージ、サポーターには、甲子園の土で真っ黒になった洗濯物が待っていた。

（家庭科）

## 甲子園の自分

四十九期K組 黒川 友紀子

開かなかつたのに、点が入ると肩まで組んで大声で応援歌を歌う。覚えてもない応援歌でもとにかく声を出す。そうして初めて、甲子園に来たことを実感した。楽しくて仕方がなかった。

しかし、私が甲子園に来て一番感じたのは楽しさではなく、寂しさだ。幼い頃テレビで見ていた高校生は、もっと大人なはずだった。今、私は彼らよりも年上になった。試合が終わって突然、そのことに気付いてしまった。甲子園はまさに、高生のためのイベントだ。それ故に、楽しかった高校生活の終わりを、私に実感させたイベントでもあったのだ。

時代の流れは、パソコンをさけて通るわけには行かなくなってきました。この講座もパソコンを初めてさわる人のためにと思って始めた講座ではあります。最近では家庭でもコンピューターをもっている人が多くなつてきているようです。

（剣道部々員）

## 地図採集の楽しさ

教諭 深谷 元



「MAP TREKKING」なんて「地図用語辞典」に載っていない。当初は「地形図探偵団」だった。それは生徒二名十一名で、自転車で巡ることから始まった。S先生のご助言で「マップ」。

いまは、女子三名、男子十名の、地図好きたちと活動している。地図エッセイの文章を読んだり、街角や道ばたの地図を集めたり、MENTAL MAPを描いて、自分の「頭のなかの地図」が、どんなに当てにならないかを知ったり、新旧の一万の地形図に色を塗り、それを手に「ゆっくりと徒歩」で世田谷の変容を読み取るなど。

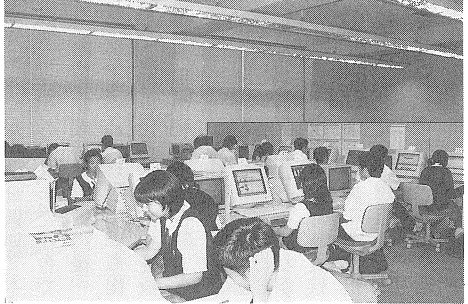
地図は難しく読めないという人がいる。そういう人は、試しに地図に色を塗ってはいかだろうか。

（地理）

## 土曜講座

## パソコン講座

教諭 上脇 正次



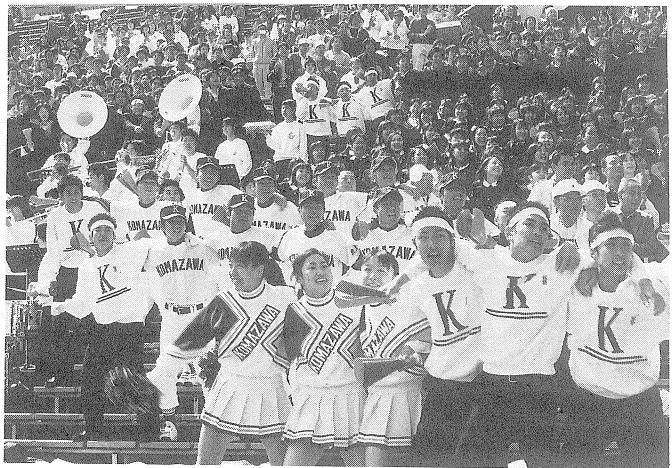
この講座は、パソコンで何ができるか、いろいろ体験して楽しんでもらおうというのが目的です。毎回やることは多岐で、刺激的です。お絵かき、デジタルカメラでとった写真の加工、はがき、表計算、ワープロ、インターネットからの画面などのバラバラの情報を一枚の画面の中に張り付けて一つの作品に完成する。そして最終的にはプレゼンテーションの方法をマスターさせ、それらをインターネットを使って公開していきたいと思っています。これらの技術は、将来、大学や社会で必要となっていくと考えられます。自分の考えの表現をもっと自由にする道具としてコンピューターを活用していければいいですね。

（数学）

# 「甲子園」応援レポート

## 燃えた。爆ぜた。爽快青春。

教 諭 高 木 恒 一



**九時：**  
試合開始が十一時からと本部より発表。  
《駒大高校の応援にぎました。朝一番の飛行機で、新幹線で、前日から泊まり掛けで、天気とは正反対に晴れやかに嬉しそうに声を掛けてくれた。》  
準備したアルプス券(八百枚)・応援グッズが無くなり、パニックに。慌てて、応援団バスの予備を求めてスタンドへ。が、スタンドもギッシリで、走り回る。  
《予想を越えた当日応援の人数に大混乱。大変ご迷惑をお掛けした。》

**十一時：**  
試合開始が一時に。受付を終了し、スタンドに。岩見沢高校の野球部・チア・吹奏楽部の生徒が引率の先生と応援に。  
《スタンドも大混乱。中でも大変だったのは、吹奏楽部だった。雨で楽器が…楽器にビニールを巻き、なんとか準備OK、応援練習をスタート。生徒も雨中、昼食抜きでメガホンを打ち振り声を枯らす。雨には負けぬぞとの心意気で頑張る。》

**十二時：**  
雨が止み、試合開始が二時に。スタンド整備、選手がグラウンドに。試合前の練習が始まる。  
《甲子園球場の水掃けの良さに驚く。応援席に大きなどよめきと、拍手が沸き起こり、期待と不安が胸中に…》  
試合開始…

**スコアボードに**  
(一回裏) 学校紹介  
(二回裏) 校歌  
《スコアボードの横に出場校の校旗が並んでいた。岩見沢(北海道)が一番端に、四本とんで我が校旗が…大法輪の旗が二本、甲子園に翻っていた。印象深く見つめる。》  
(四回裏) 先取点  
(五回裏) 同点にされる  
(六回裏) 逆転される  
(八回裏) 同点に  
《岩見沢高校の鎌倉先生(応援引率責任者)が、「夕食時間間に合わないから、そろそろ京都の宿舎に帰るよ」と岩見沢の生徒に声をかけるが、生徒は無視して応援に熱中。鎌倉先生、苦笑いして、「高木先生、食事の時間を遅らせますので、最後までいます」と。兄弟校とはいえ、北海道と東京ということでほとんど交流もないのに、同じ校歌・応援歌を取り持つ縁に胸になにやら込み上げてくる。》  
(九回裏) サヨナラ勝ち  
《甲子園のセンターポールに校旗が…校歌を聞きながら歌いながら、不覚にも涙が。私だけだろうか?。北原白秋・作詞、山田耕作・作曲の校歌は甲子園に似合っていた。実に素晴らしい校歌だ。》  
試合終了…  
《十五分間でスタンドより退場というところでこれがまた大変であった。初勝利の嬉しさもそこそこに、スタンド脇の「燃えよファイト! 駒大健児」の垂れ幕を外して畳んだり、後かたづけをしてスタンドの外に。そこでチアリーディング部のOGの一団と遭遇。「先生、勝った! 勝ったね!」と。不覚にも抱合っ

て喜んでしまった。  
スタンドからの退場のどきくさにまぎれて、女子生徒の写真を下から撮っていた不心得者がいた。鈴木貞雄教諭(現地担当責任者)が、その者を甲子園警備本部に。後で近畿大学の学生と判り憤りを憶える。》  
高速度路下の駐車場…  
応援リーダー・吹奏楽部・チアリーディング部のバス  
を見送る。  
《応援生徒は勿論だが、雨の中、試合開始が延びて昼食も取らずに応援していた、応援リーダー・吹奏楽部・チアリーディング部に心より感謝!。  
(後に毎日新聞社より応援優秀賞が授与される)》  
《駐車場で長崎日大の吹奏とチアリーディングのバスが同じ場所に停車していた。その長崎日大の代表者が、我が校のバスにやってきて二回戦も頑張つてとエールを掛けてくれた。高校生の爽やかさを目撃。》  
六時三十分…  
新大阪駅から帰京。  
《新幹線のなかで、ささやかにビールで初勝利を祝い乾杯し、心地好い睡魔に襲われて新横浜に到着。家に帰り、さあビデオで鑑賞と思つたが、ビデオのタイマー録画はめちゃくちゃであった。(私事だが家内も応援バスで甲子園に出張中だった。》

**三月二十五日(開会式)**  
午前：  
応援の打ち合せ会議。  
午後：  
現地(甲子園)担当として、鈴木貞雄・小林清次郎氏らと大阪に向かう。  
《初めての甲子園に胸を躍らせながら大阪に乗り込む。》

**三月二十六日(大会二日目)**  
甲子園に赴き、駒大岩見沢のスタンドで声を枯らしながら応援状況を視察する。  
《岩見沢のヒグマ打線が一回より爆発。明日はうちの打線もこうなりたいと、応援しながら願う。》  
応援団バスの駐車場を見て、野球部宿舎「水明荘」へ。  
明日の打ち合せと、東京から送った「応援グッズ」の確認をする。

**三月二十七日(大会三日目)**  
五時三十分…  
起床、雨はやんでいるが今にも降り出しそう。  
六時三十分…  
大阪から「水明荘」へ、雨がシトシトと降りだしてきてた。  
七時三十分…  
甲子園球場前の高速度路下で、応援の当日受付の準備を始める。

**準備中にも関わらず、三十人程の人が待つていた。雨は小降りだが止む気配はなく、九時三十分の試合開始は遅れそうである。》  
八時…  
受付を開始する。雨が激しく降ってきた。阪神電車が到着する度に、応援の人数が膨れ上がってくる。**

**三月二十九日(大会六日目)**  
午後：  
応援の打ち合せ会議。  
現地(甲子園)担当として、鈴木貞雄・小林清次郎氏・校友会役員四名と大阪に向かう。  
大阪、到着後、選手宿舎の水明荘へ  
《水明荘で校友会副会長の近藤君が全校生徒を代表して激励。川端主将が選手を代表してそれに答えていた。両者ともなかなか立派である。》  
明日の打ち合せをして、大阪に。

**三月三十日(大会七日目)**  
七時…  
起床、前回とは違い快晴。  
八時…  
大阪から甲子園に。  
九時…  
甲子園に到着。応援の準備に取りかかる。  
十時三十分…  
スタンド応援責任者として大会本部へ。  
《前回の対長崎日大戦は須賀喜一郎教諭が応援責任者を努めていたが、体調不良で交代。室内練習場では選手達が試合前のアップをしていた。緊張していたのは私だけだった。》  
大会本部で応援の諸注意と「応援三点セット(腕章・ポケベル・内線電話カード)」を渡されて、平安高校応援責任者と打ち合せ。  
《高校生の試合である甲子園大会には、応援にも様々な制約がある。「応援三点セット」のポケベルは応援に不都合があった場合、大会本部が改善をうながす時に使用されるものである。平安高校は春・夏、合せて三十四目の出場と聞く。スタンド応援責任者の松田先生の落ちつきと手際の良さに感心した。》  
十一時…  
吹奏楽部より入場開始。  
グラウンドではPL学園が大差で。

**差で。**  
《PLと玉野江南戦を観戦していて、ふと不安にかられてしまふ。》  
十一時三十分…  
先生方の協力で応援生徒着席。  
《前回の反省をふまえて、座席の図面を引き、座席を決めて着席してもらおう。巧く着席できたと思うが。》  
試合開始…  
一回裏・五回裏に大会本部にスタンド下から内線電話を入れる。  
《大会本部に我が校の応援状況の確認をする。「結構な応援です頑張つて下さい」との返事。攻撃中は常に下から応援状況を把握していなければならなかったので「やれやれ」と一服。》  
すごい試合に!  
(七回裏) 三点を返して七対七の同点に  
《得点が入ると応援席では肩を組み「アップテンポ応援歌」で盛り上がった。しかし同点に追い付くがどうしても勝越せない。ウーン…坂上「頑張れ!」  
一方、傍らでは平安高校に勝利した場合の相談が。応援団の責任者である柏崎康利教諭と京王観光の国近氏とで、京都での宿泊の準備が慌ただしく進められていった。》  
(九回裏) サヨナラを期待するが  
《応援も益々、力が入るが前回のようにはいかない。》  
(十回裏) 二点を入れられ敗戦す。  
《残念・無念…選手は頑張る。応援団も爽やかな応援であった。選手も応援も伝統校平安高校に負けてはいなかった。》  
試合終了…  
浦井監督がインタビューを受けている通路脇をぬけて大会本部へ応援の「三点セット」を返却。  
帰りにテレビで試合の解説をしていた元PL高校監督中村順司先生に「惜しかったですね。夏にまたきて下さいよ」と話しかけられる。  
《負けたが、なんだか不思議に心地良い気持ちに…。》  
甲子園出場に関しては様々な人々の物心両面での援助と協力があった。夏の甲子園を是非経験したいとの気持ちが一層湧いてきてしまったのは私だけだろうか。  
最後に甲子園のスタンドで数多くの同窓生に声を掛けられ、満足に話してもできず大変失礼した。お詫びして、このレポートの終わりとしたい。》  
(十六期N組)



《スコアボードの横に出場校の校旗が並んでいた。岩見沢(北海道)が一番端に、四本とんで我が校旗が…大法輪の旗が二本、甲子園に翻っていた。印象深く見つめる。》  
(四回裏) 先取点  
(五回裏) 同点にされる  
(六回裏) 逆転される  
(八回裏) 同点に  
《岩見沢高校の鎌倉先生(応援引率責任者)が、「夕食時間間に合わないから、そろそろ京都の宿舎に帰るよ」と岩見沢の生徒に声をかけるが、生徒は無視して応援に熱中。鎌倉先生、苦笑いして、「高木先生、食事の時間を遅らせますので、最後までいます」と。兄弟校とはいえ、北海道と東京ということでほとんど交流もないのに、同じ校歌・応援歌を取り持つ縁に胸になにやら込み上げてくる。》  
(九回裏) サヨナラ勝ち  
《甲子園のセンターポールに校旗が…校歌を聞きながら歌いながら、不覚にも涙が。私だけだろうか?。北原白秋・作詞、山田耕作・作曲の校歌は甲子園に似合っていた。実に素晴らしい校歌だ。》  
試合終了…  
《十五分間でスタンドより退場というところでこれがまた大変であった。初勝利の嬉しさもそこそこに、スタンド脇の「燃えよファイト! 駒大健児」の垂れ幕を外して畳んだり、後かたづけをしてスタンドの外に。そこでチアリーディング部のOGの一団と遭遇。「先生、勝った! 勝ったね!」と。不覚にも抱合っ

て喜んでしまった。  
スタンドからの退場のどきくさにまぎれて、女子生徒の写真を下から撮っていた不心得者がいた。鈴木貞雄教諭(現地担当責任者)が、その者を甲子園警備本部に。後で近畿大学の学生と判り憤りを憶える。》  
高速度路下の駐車場…  
応援リーダー・吹奏楽部・チアリーディング部のバス  
を見送る。  
《応援生徒は勿論だが、雨の中、試合開始が延びて昼食も取らずに応援していた、応援リーダー・吹奏楽部・チアリーディング部に心より感謝!。  
(後に毎日新聞社より応援優秀賞が授与される)》  
《駐車場で長崎日大の吹奏とチアリーディングのバスが同じ場所に停車していた。その長崎日大の代表者が、我が校のバスにやってきて二回戦も頑張つてとエールを掛けてくれた。高校生の爽やかさを目撃。》  
六時三十分…  
新大阪駅から帰京。  
《新幹線のなかで、ささやかにビールで初勝利を祝い乾杯し、心地好い睡魔に襲われて新横浜に到着。家に帰り、さあビデオで鑑賞と思つたが、ビデオのタイマー録画はめちゃくちゃであった。(私事だが家内も応援バスで甲子園に出張中だった。》

**三月二十九日(大会六日目)**  
午後：  
応援の打ち合せ会議。  
現地(甲子園)担当として、鈴木貞雄・小林清次郎氏・校友会役員四名と大阪に向かう。  
大阪、到着後、選手宿舎の水明荘へ  
《水明荘で校友会副会長の近藤君が全校生徒を代表して激励。川端主将が選手を代表してそれに答えていた。両者ともなかなか立派である。》  
明日の打ち合せをして、大阪に。

**三月三十日(大会七日目)**  
七時…  
起床、前回とは違い快晴。  
八時…  
大阪から甲子園に。  
九時…  
甲子園に到着。応援の準備に取りかかる。  
十時三十分…  
スタンド応援責任者として大会本部へ。  
《前回の対長崎日大戦は須賀喜一郎教諭が応援責任者を努めていたが、体調不良で交代。室内練習場では選手達が試合前のアップをしていた。緊張していたのは私だけだった。》  
大会本部で応援の諸注意と「応援三点セット(腕章・ポケベル・内線電話カード)」を渡されて、平安高校応援責任者と打ち合せ。  
《高校生の試合である甲子園大会には、応援にも様々な制約がある。「応援三点セット」のポケベルは応援に不都合があった場合、大会本部が改善をうながす時に使用されるものである。平安高校は春・夏、合せて三十四目の出場と聞く。スタンド応援責任者の松田先生の落ちつきと手際の良さに感心した。》  
十一時…  
吹奏楽部より入場開始。  
グラウンドではPL学園が大差で。

# 会費・寄付金 納入者芳名

平成十年八月七日から平成十一年七月末までに納入された年会費です。今回も複数年度分納入された方がたくさんいらっしゃいます。詳細は省略させていただきます。(卒業期の確認をお願い致します。)

## 会費納入者

(敬称略)

- (一期) 松本 勇・原 正男・石塚宗市 関 亮・和智健次・河野純香 石川 卓
- (二期) 関 雅夫
- (三期) 大谷康憲・青山 勇
- (四期) 田上太秀・渡辺 忠・菅間一成 谷口 武
- (五期) 真田治孝・小川 宏
- (六期) 河内俊孝・菅田龍一
- (七期) 中森和會
- (八期) 三田英雄
- (九期) 岡野健一・柳原義光・井野孝司
- (十期) 中島盛彦・吉澤道雄・徳山康二 向井三陽
- (十一期) 美原 清・大塚真一・高橋義雄 杉山 孝・葛西治雄・竹内伸英 菅谷栄男・増田政一・幡野計一
- (十二期) 納谷僚一・大塚克慧・滝口清勝 奥村浩次郎
- (十三期) 表 勝昭・三輪源男・堤 崇 志治孝昭・浦 敏之
- (十四期) 永保厚嘉・諸岡泰壽・山本徹秀 大澤安幸・清石寛孝
- (十五期) 石橋真人・白木誠一・小林 仁 清野幸俊・松山克雄・前田雅信 宮田利徳・鈴木 洋 菅沼つとむ
- (十六期) 北澤 隆・田中俊三・橋 智雄 五月女和治・大塚高明・三武徹 小林洋祐・佐藤和行・腰塚正章 阿久澤弘昭・小田倉敏夫 渡辺正弘・志村暁三郎 滝沢俊勝・高木恒一
- (十七期) 高津一仁・野村利明・小林 仁 住田博幸・井上正雄・川辺章三
- (十八期) 木村 等・上杉和夫・續 道雄 山崎敬三・高橋 功・富田由蔵 中野玄糸・月岡裕二・秋成知道 清水英行
- (十九期) 島崎光次・岩佐善公・井上 猛 脇田正治・野田義宣・塩入基臣
- (二十期) 星野隆光・小林正治・中川健二 斎藤光政・法雨 浩・荒井伸夫 鈴木堯泰・金子隆司郎
- (二十一期) 加藤一弘・遠藤敏行・石井健夫 飯塚辰男・森谷眞通・田中機一 香取眞理男・山田 進
- (二十二期) 堀岡 裕・大塚利一・高島 晃 泉 弘一・酒井保行・藤森信明 谷中一男・高橋正之
- (二十三期) 三輪絵一郎
- (二十四期) 小野達等・鶴見和利・渡辺裕司 丹羽俊夫・黒須孝則・雨宮幸仁 野本 斉・大橋伸吉・佐藤清廉 菊地善彦・磯野雄二
- (二十五期) 大原武司・大瀧祐賢・大塚芳広 高村輝久・田口正延・高橋徳孝 須貝敏弘・渡部雅樹・北 晴久 進士 徹・佐藤元泰
- (二十六期) 椎名伸吉・小山善之・尾澤克広 星 康則・福島 徹・藪田 浩 河口正之・川井康明・飯島尚之 蛭沼 豊
- (二十七期) 粕谷 仁・小林和美・白浜勇二 大野秀夫・椎本邦一・田崎博識 由良一洋・上條晴久・鮫島大仙 杉浦 正・神谷光伸
- (二十八期) 野原正恵・加藤 廣・前田重賢 石井宣尚・杉山富男・石井博人
- (二十九期) 江藤雅隆・小林敏夫・飯島秀剛 内藤晋一
- (三十期) 戸谷浩次・毛利幸功・長瀬恵則 島田伸一郎・篠原浩一 関根(吉岡) 且人・北井敏英 小野瀬康行・細野三千穂
- (三十一期) 本間 茂・白川昌幸・那須 寛 高野新一郎
- (三十二期) 中溝暢生・遠藤広一・漆原泰義
- (三十三期) 石川浩和・石川信之・鈴木 篤 吉澤直司
- (三十四期) 岡 勇樹・大崎泰輝
- (三十五期) 関戸政文・渡辺嘉孝・藤井義康 上野山泰誠
- (三十六期) 内藤賢二・河野光徳・佐枝浩孝
- (三十七期) 草柳真一・猪俣恭幸・遠藤新志
- (三十八期) 高橋浩一
- (三十九期) 早坂友和・原 里志・長島 慎 伊藤弘道・鍋谷 聰
- (四十期) 赤塩聖一・中富 研
- (四十一期) 加藤弘之・阿彦尚志・本多正明 山下 剛・羽場敬仁・村田哲也

〔二十七号記載以降、平成十一年七月末現在〕

- 〔二十六期〕 松本一郎・林 貞男・高梨哲也 荒川聡一・玄野善識
- 〔四十二期〕 柳沢文隆・山口隆之・五味伸浩 金田伸也
- 〔四十三期〕 野村利和
- 〔四十四期〕 館寺規弘・館寺俊明・松本一男 山下 大
- 〔四十五期〕 鈴木佑介・島崎涼太・外村祐治 安井裕二
- 〔四十六期〕 鈴木朝春・中村敏之輔 桑原亮太郎・松澤将人 萩原信介・山本太郎・伊藤良弘 白石勇樹・望月太郎
- 〔四十七期〕 今野富仁・植松清太郎・持丸卓 浅井敬郎・平井寛章・嶋田祥之 田島義隆・小林敦史・三崎 命 中川 岳・大宮康裕・大土佳宏 西 敏宏・前原昭彦・南総一郎 林 賢一
- 〔四十八期〕 深瀬雅光・吉浦弘哲・中村誠秀 花見 歩・牧野高子・佐藤啓三 富永雅志・根本結希・坂倉秀和 廣田久子・長山 靖・河原智史 野中秀晃・今田 俊・浅岡武徳 保々健介・小笠原伸恭 小宮山友祐・佐久間貴之 三木淳一郎・西脇丈太郎
- 〔三十四期〕 吉澤直司
- 〔三十五期〕 岡 勇樹・大崎泰輝
- 〔三十六期〕 関戸政文・渡辺嘉孝・藤井義康 上野山泰誠
- 〔三十七期〕 内藤賢二・河野光徳・佐枝浩孝
- 〔三十八期〕 草柳真一・猪俣恭幸・遠藤新志
- 〔三十九期〕 高橋浩一
- 〔四十期〕 早坂友和・原 里志・長島 慎 伊藤弘道・鍋谷 聰
- 〔四十一期〕 赤塩聖一・中富 研
- 〔四十二期〕 加藤弘之・阿彦尚志・本多正明 山下 剛・羽場敬仁・村田哲也

## 寄附金納入者

- 〔五期〕 真田治孝・小川 宏
- 〔十八期〕 秋成知道・續 道雄・中野玄糸
- 〔二十一期〕 田中機一
- 〔二十五期〕 須貝敏弘
- 〔二十六期〕 藪田 浩
- 〔三十期〕 篠原浩一
- 〔三十七期〕 草柳真一
- 〔四十一期〕 松本一郎

## クラス会・OB会・OG会



サッカークラブ部  
二月七日(日)  
一九九九年二月七日、駒大高サッカークラブ会定期総会を開催した。  
天候は三月下旬を思わせる程のポカポカ陽気で、午前中はグラウンドでゲームを行い、現役時代を思わせるプレーも続出、エキサイトする場面も見受けられた。午後は会議室で親睦会を行い、野球部の甲子園出場を祝い、サッカー部もこれに続けとバックアップ体制を決意していただいた。  
また、終始和やかな雰囲気の中、現役時代の思い出話が尽きることはなかった。

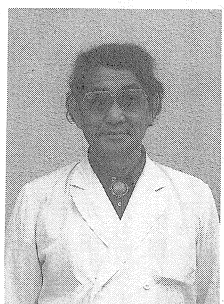
それぞれ生活する道は違いますが、同じ価値観をもった仲間という素晴らしい集団をみたような気がする。  
現役諸君にも是非三年間部活動を続けてもらいたい、生涯の友を見つけてもらいたいと期待するところである。  
(顧問 大野祥司)  
十八期一組(佐藤 正先生)  
七月三日(土)  
昨年三月に、退職されました佐藤 正先生の謝恩会を、参加者十三名(一組十名、二組三名)という人数で、品川プリンスホテル四階品川大飯店で行いました。

- ハンドボール部 二月十三日(土)
- 吹奏楽部 三月十二日(金)
- 十七期F組(松本 修先生) 五月七日(金)
- 三十四期K組(井上保広先生) 五月十五日(土)
- ゴルフ部 六月二日(水)
- ハンドボール部 七月四日(日)
- ソフトテニス部 七月二十三日(金)
- 女子バスケットボール部 八月四日(日)
- 四十八期F組(新羅朱美先生) 八月十四日(土)

## 謹んでご冥福をお祈りいたします

吉田多津雄先生をいたむ

教諭 二瓶 要功



急逝(四月一日)に驚きがいやまない。研究書「平治物語の成立」(共著・汲古書院)を刊行されたばかりというのに残念である。三月中旬の検査入院が帰らぬ人となってしまった。あの



## 八転七起

編集委員長 森本 勝

春の選抜初出場、夏の予選決勝進出等あたたかい月日が流れました。同窓会も来年の創立五十周年の準備に入り役員の方々の会合も数多く開かれるようになっていきます。我が母校も全国の多くの方々にその名を知られるようになり、それなりに格調の高い活発な同窓会活動をしていかねければと考えています。同窓生各位の一層のご協力を願うところです。春の選抜出場の際には皆様の物心にわたるご協力をいただき同窓会として、無事役割を果たせたと深く感謝し心よりお礼申し上げます。(四期)

## 会員計報

- 奥貫 英 俊 十五期E組 10・4
- 植 益 功太郎 四十三期B組 10・4
- 角 谷 正 二 一期 10・5
- 七五三 亮 一 六期A組 10・12
- 伊 吹 正 登 四期 11・3
- 長 南 勉 一期 11・7